

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	千葉大学
連携大学名	—
事業名	メンタル・サポート医療人とプロの連携養成

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルを連携して養成する具体的な達成目標として、(1)講義・演習をWEB上に録画配信し、遠隔講義情報システムを構築する、(2)年1回のメンタル・フォーラムの開催により、対面での学びの場を確保する、(3)メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルの科目を2科目開発し、補助教材としてWEB上のセルフヘルプ式の認知行動療法のコンピュータ・プログラム・オンライン教材を受講生が活用できるようにする、(4)コースプログラムの受講者(毎年21名)からのアンケートでの評価を行う、(5)介入前後でのうつや不安の症状変化をデータベースで収集するシステムを構築し、履修生の一般医療現場での実践を教員が把握、支援する体制づくりを行う。以上のコースは、事業後も継続し、また、日本各地から、WEB講義形式で受け入れるために、有料の研修会(ワークショップ)を開設する等の方法を検討し、取組を全国に普及していく。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H30年度	H31(2019)年度	2020年度	2021年度	2022年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネータ(特任研究員)、事務補佐員の雇用 ・模擬講義の実施 ・H31年度メンタルプロフェッショナル養成コース募集:3名(うち医師3名) ・H31年度メンタルサポート医療人養成コース募集:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H31年度メンタルプロフェッショナル養成コース新規受入れ:3名(うち医師3名) ・H31年度メンタルサポート医療人養成コース新規受入れ:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2020年度メンタルプロフェッショナル養成コース募集:3名(うち医師3名) ・2020年度メンタルサポート医療人養成コース募集:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度メンタルプロフェッショナル養成コース新規受入れ:3名(うち医師3名) ・2020年度メンタルサポート医療人養成コース新規受入れ:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2021年度メンタルプロフェッショナル養成コース募集:3名(うち医師3名) ・2021年度メンタルサポート医療人養成コース募集:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度メンタルプロフェッショナル養成コース新規受入れ:3名(うち医師3名) ・2021年度メンタルサポート医療人養成コース新規受入れ:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2022年度メンタルプロフェッショナル養成コース募集:3名(うち医師3名) ・2022年度メンタルサポート医療人養成コース募集:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度メンタルプロフェッショナル養成コース新規受入れ:3名(うち医師3名) ・2022年度メンタルサポート医療人養成コース新規受入れ:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2023年度メンタルプロフェッショナル養成コース募集:3名(うち医師3名) ・2023年度メンタルサポート医療人養成コース募集:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者会議およびメンタル・フォーラムの実施 ・教員ワーキンググループを立ち上げ ・専用WEBサイトの開設(H31年度募集要項作成、周知、H31年度開設コースの募集) ・教育プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者会議およびメンタル・フォーラム、自己点検評価の実施 ・専用WEBサイトの充実(2020年度募集要項作成、周知、2020年度開設コースの募集) ・教育プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者会議およびメンタル・フォーラム、自己点検評価の実施、外部評価委員会(中間)の実施 ・専用WEBサイトの充実(2021年度募集要項作成、周知、2021年度開設コースの募集) ・教育プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者会議およびメンタル・フォーラム、自己点検評価の実施 ・専用WEBサイトの充実(2022年度募集要項作成、周知、2022年度開設コースの募集) ・教育プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者会議およびメンタル・フォーラム、自己点検評価の実施、外部評価委員会(最終)の実施 ・専用WEBサイトの充実(2023年度募集要項作成、周知、2023年度開設コースの募集) ・教育プログラムの開発

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬講義の参加者数10名 ・H31年度メンタルプロフェッショナル養成コース受入者決定:3名(うち医師3名) ・H31年度メンタルサポート医療人養成コース受入者決定:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・メンタル・フォーラムの開催回数:1回以上 ・メンタル・フォーラムの参加者:60名 	<ul style="list-style-type: none"> ・H31年度メンタルサポート医療人養成コース修了者数:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2020年度メンタルプロフェッショナル養成コース受入者決定:3名(うち医師3名) ・2020年度メンタルサポート医療人養成コース受入者決定:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・メンタル・フォーラムの開催回数:1回以上 ・メンタル・フォーラムの参加者:60名 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度メンタルサポート医療人養成コース修了者数:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2021年度メンタルプロフェッショナル養成コース受入者決定:3名(うち医師3名) ・2021年度メンタルサポート医療人養成コース受入者決定:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・メンタル・フォーラムの開催回数:1回 ・メンタル・フォーラムの参加者:60名 	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度メンタルサポート医療人養成コース修了者数:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2022年度メンタルプロフェッショナル養成コース受入者決定:3名(うち医師3名) ・2022年度メンタルサポート医療人養成コース受入者決定:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・メンタル・フォーラムの開催回数:1回 ・メンタル・フォーラムの参加者:60名 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度メンタルプロフェッショナル養成コース修了者数:3名(うち医師3名) ・2022年度メンタルサポート医療人養成コース修了者数:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・2023年度メンタルプロフェッショナル養成コース受入者決定:3名(うち医師3名) ・2023年度メンタルサポート医療人養成コース受入者決定:18名(うち医師5名、歯科医師5名、薬剤師2名、看護師4名、コメディカル2名) ・メンタル・フォーラムの開催回数:1回 ・メンタル・フォーラムの参加者:60名
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムおよび専用WEBページによる情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムおよび専用WEBページによる情報発信 ・自己点検・評価の反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムおよび専用WEBページによる情報発信 ・自己点検・評価の反映、外部評価委員会の評価の反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムおよび専用WEBページによる情報発信 ・自己点検・評価の反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムおよび専用WEBページによる情報発信 ・自己点検・評価の反映、外部評価委員会の評価の反映
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの		<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルサポート医療人の増加 ・精神科専門医(メンタルプロフェッショナル)と一般医療の交流の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルサポート医療人の増加 ・精神科専門医(メンタルプロフェッショナル)と一般医療の交流の増加 ・うつ不安のメンタルヘルス指標の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルサポート医療人の増加 ・精神科専門医(メンタルプロフェッショナル)と一般医療の交流の増加 ・うつ不安のメンタルヘルス指標の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルサポート医療人の増加 ・メンタルプロフェッショナル医療人の増加 ・精神科専門医(メンタルプロフェッショナル)と一般医療の交流の増加 ・うつ不安のメンタルヘルス指標の改善
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・県内における本事業の認知の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルサポート医療人養成コース修了者が一般医療の中で、メンタルヘルスサポート医療の重要性を周囲に広めることによる、精神科専門医療との交流推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・県医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会との連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学や他医療機関での教育プログラムの波及 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内⇒関東圏⇒全国の医療機関からの参加

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業の実施に当たっては、学長・病院長等のリーダーシップの下、責任体制を明確にした上で全学的な実施体制で行うこと。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	徳久剛史学長のリーダーシップのもと、中山俊憲医学研究院長の執行部会での承認を得て、清水栄司副学部長が、白澤浩医学薬学府長からの大学院教育の助言を受けながら実施する体制を作る。科目等履修生制度を利用したコースを、事業後も継続する以外に、有料の研修会(ワークショップ)を開設する等の方法を検討し、自立化した事業体制を目指す。
②	客観的なアウトプット、アウトカムを年度毎に明確にした上で、自己点検・評価や外部評価を実施し、事業の改善を行いつつ、全国の模範となる体系的な教育プログラムを展開すること。その際、本事業における多職種養成等の特性を踏まえ、履修する学生や医療従事者等が受講しやすい環境整備に配慮するとともに、修了者のキャリアパス形成につながる体制を構築すること。	プロセス評価として、受講者アンケートの満足度スコアを収集し、アウトカム評価として、患者のうつ不安の自記式質問紙による症状改善スコアを収集し、自己点検・評価や外部評価に生かし、関係者会議で事業の改善を行いつつ、フォーラムで全国への普及を目指す講義・演習をWEB上に録画配信する遠隔講義情報システムを整備するとともに、メンタルヘルス問題への臨床実践能力を高めることで多職種、それぞれの医療資格としてのキャリア形成支援を行う体制を構築する。
③	事業の実施状況や成果等を可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学・大学病院の参考に資するよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等についても積極的に発信するなど、成果等の普及・展開に努めること	メンタル・フォーラムで、全国の医療機関からの参加を受け付けたり、WEBサイトで本プログラムの内容を広く公開したり、周知に努める。また、開発した教育プログラム、オンライン教材やマニュアル、症状評価データベースなども、有料ではあるが、他大学や他医療機関でも自由に利用可能として、普及に努める。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
事業の担当者数が非常に多く、職種間の意見調整などに偏りの問題が生じる可能性があり、コアな担当者とサブの担当者に分ける必要があるのではないかと考えられる。	事業のコアな担当者は、精神科医、内科医、小児科医、歯科医、看護師、薬剤師として、それ以外はサブの担当者として分けて考えるようにする。
「職種を横断した体系化された教育プログラム」と記載があるが、職種間での連携、各職種における受入れ目標人数配分の妥当性、また、メンサポとメンプロとの連携はどのように構築されるのか不明確となっている。	看護師、薬剤師などは、対応する患者の主治医との連携を図るのが基本である。その上で、職種間での連携として、看護師は医院や病院で、保健師は訪問家庭や産業現場で、助産師は産院で、薬剤師は薬局等で、それぞれの職種によって勤務する場所が異なるが、軽症のうつ不安を抱える患者に遭遇した場合にどうすればよいかという問題意識は共通である。よって、主治医と連携しながら、看護師、薬剤師、あるいはその他のコメディカルが、低強度の認知行動療法的なアプローチを提供することが重要である。ただし、医師、歯科医師が、認知行動療法についての知識とスキルを持ち合わせなければ、看護師や薬剤師から求められた場合に、十分な連携は望めない。よって、今回は、医師5人、歯科医師5人と両職種に多めの人数を設定し、看護師(保健師、助産師を含む)4人とその次に多い人数を設定し、やや患者との接点が少なめの薬剤師2人と設定した。メンサポ(一般医療者)とメンプロ(精神科医)が共に学ぶ症例検討会を演習2単位の必修科目として行い、うつ不安尺度のデータを基にした軽症者と重症者の相互紹介ネットワークを構築する予定である。